

平成 21 年 4 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18401036
研究課題名（和文）チベットの文化復興とアイデンティティの形成に関する文化人類学的研究
研究課題名（英文）Cultural Anthropological Study on Tibetan Cultural Revitalization and Identity
研究代表者
煎本 孝（IRIMOTO TAKASHI）
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：50124227

研究分野：人文学A

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：文化人類学、民族学、文化復興、チベット、アイデンティティ

1. 研究計画の概要

チベットでは、1966-77年の文化大革命を経て、1978年以降の改革開放政策という政策転換のもとに伝統文化や僧院の復興が進み、チベット族としてのアイデンティティが再び形成されるようになってきている。本研究計画は、ウ・ツァン地方、カム地方、アムド地方における文化復興の実態を広域的実地調査により明らかにすると同時に、集中的実地調査をもとに、僧院・祭りの復興、観光化、チベット族—漢族—回族という多民族間関係の分析に基づき、チベット族における文化復興とアイデンティティ形成のメカニズムを文化人類学視点から解明することにある。

2. 研究の進捗状況

(1)平成18年度は本研究課題の目的にそって、研究代表者および研究分担者は、平成18年7月から8月にかけて、北海道大学大学院文学研究科博士課程、京都大学大学院人間・環境研究科博士課程の大学院生を研究協力者として、中国青海省、四川省をはじめとする東チベットのカム地方、アムド地方においてフィールド調査を実施した。研究代表者および研究分担者は青海省において伝統的祭りに関するフィールド調査を行った。

(2)平成19年度は、研究代表者は、平成19年7月から8月にかけて中国四川省において集中的フィールド調査を実施した。研究分担者は平成19年7月から8月にかけて、四川省において、各僧院の復興、観光化の影響などに関するフィールド調査を実施した。研究協力者の1人は、平成19年6月から8月にかけて青海省においてフィールド調査を継続した。もう1人の

研究協力者は、四川省において、僧院復興と観光化に関するフィールド調査を継続した。(3)平成20年度は、研究代表者および研究分担者は、平成20年12月から平成21年1月にかけてインド、デリー地区、ダラムサラ地区、デラドゥン地区におけるウ・ツァン地方、カム地方、アムド地方出身者居住区において、チベットの文化復興に関する文化人類学的情報資料収集のための調査を実施した。研究協力者は、青海省におけるフィールドデータを整理、分析し、平成20年度博士学位申請論文「チベット族による民族間紛争の解決に関する人類学的研究—中国青海省海東地区化隆回族自治県における事例から」を作成、北海道大学大学院文学研究科に提出し、学位取得を行った。もう1人の研究協力者は、四川省において、平成21年1月から3月にかけてフィールド調査を継続した。

なお、チベット族を対象とするインタビュー調査は、相手の同意と協力のもとに実施し、プライバシーおよび利益の保護に十分配慮した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)本研究課題の目的にそった文化人類学的情報資料の収集が行われ、さらに、北海道大学大学院の研究協力者は博士学位論文の提出、学位取得を行うなど、本研究計画の研究教育上の成果も認められた。

4. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策については、

当初の本研究課題の目的にそって、さらに文化人類学的情報資料の収集を行い、整理、分析を進める必要がある。同時にチベット関係文献資料の整理とデータベース作成を行い、チベット研究全体の中での本研究の位置づけを明確にする必要があると考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

1. 山田孝子、「チベット、アムド、カム地方における宗教の再活性化とチベット仏教僧院の存続に向けての取り組み」、北方学会報、査読有、13、2008、4-12
2. 上原周子、「青海省チベット族の生活と信仰—ジェンザ・マニカと 12 の集落」、北方学会報、査読有、13、2008、24-35
3. Irimoto, Takashi Anthropological Themes Today Viewed from Northern Studies. Northern Studies Association Bulletin 12, 査読有、2007、1-3
4. 小西賢吾、「中国四川省北西部の観光地化とチベット住民の現状」、北方学会報、査読有、12、2007、22-29
5. 上原周子、「中国青海省東部におけるチベット人の信仰」、北方学会報、査読有、12、2007、30-39

[学会発表] (計 6 件)

1. Yamada, Takako. Relationship between Humans and Nature: From Animism to a Philosophy of Ecology. Continuity, Symbiosis, and Mind in Traditional Cultures of Modern Societies, Sapporo International Workshop. November 1-2, 2008, Faculty House Enreiso, Hokkaido University.
2. Uehara Chikako. A Strategy for Coexistence: Case of the Festival at Temple W in Haidong District, Qinghai Province, China. Continuity, Symbiosis, and Mind in Traditional Cultures of Modern Societies, Sapporo International Workshop. November 1-2, 2008, Faculty House Enreiso, Hokkaido University.
3. Yamada, Takako. A Reappraisal of Eurasian Shamanism. A Circumpolar Re-Appraisal: The Legacy of Gutorm Gjessing (1906-1979), A Crossdisciplinary Symposium on the Arctic. October 10-12, 2008, Norwegian University of Technology and Science (NTNU), Trondheim, Norway.
4. 山田孝子、「チベット、アムド・カム地方における宗教の再活性化とチベット仏教僧院の存続に向けての苦闘」第 13 回生態人類

学会研究大会、2008 年 3 月 22-23 日。富山市、富山大学

5. Yamada, Takako. Shamanism that transcends the borders: with special reference to Ladakhi shamanism. IAHR Special Conference, April 19-22, 2007, Stockholm, Sweden: Södertörn University College.

[図書] (計 4 件)

1. 山田孝子、京都大学学術出版会、『ラダック』、2009、421
2. [博士学位論文] 上原周子、『チベット族による民族間紛争の解決に関する人類学的研究—中国青海省海東地区化隆回族自治州における事例から—』2009、203
3. 煎本孝、山田孝子 (編) 京都大学学術出版会、『北の民の人類学—強国に生きる民族性と帰属性』2007、340
4. 煎本孝、山岸俊男 (編) 世界思想社、『現代文化人類学の課題』2007、233